

令和4年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト

(福祉・教育・競技団体等との連携を中核的に担うコーディネーターの配置)

成果報告書概要

令和5年3月1日
山梨県スポーツ振興局
スポーツ振興課
パラスポーツ担当

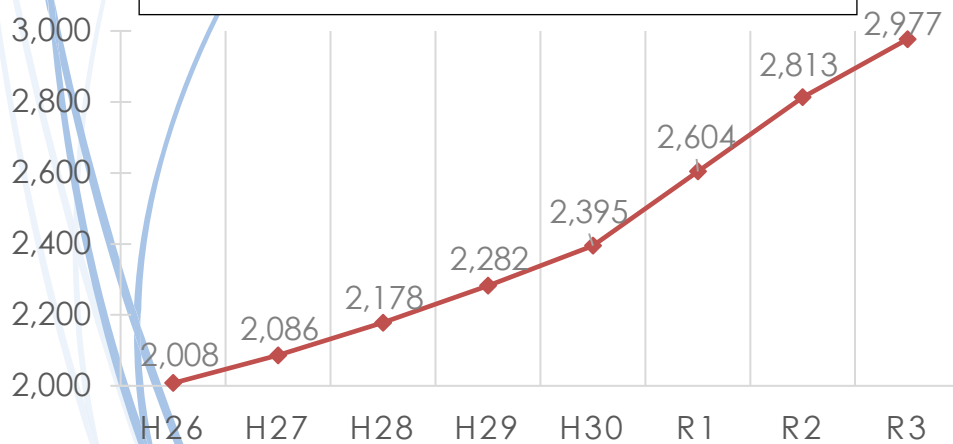
本県の障害者のスポーツ活動における現状と課題

- <現状>**・全国では、障害者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率は31%であり、一般（成人）の56.4%に比べて低い。（※1）また、障害者（7～19歳）の実施率は41.8%（※2）であり、成人の実施率は31%であることから、成人以降の実施率が下がる傾向にある。
- ・本県では、特別支援学校及び特別支援学級の在籍者数増加が見られるが（表1）、県障害者スポーツ大会の参加者は減少傾向にあることから（表2）、卒業後の余暇活動としてスポーツ活動に繋がりにくい現状が推察される。

※1～3出典：障害児・者のスポーツライフに関する調査研究（R3スポーツ庁）

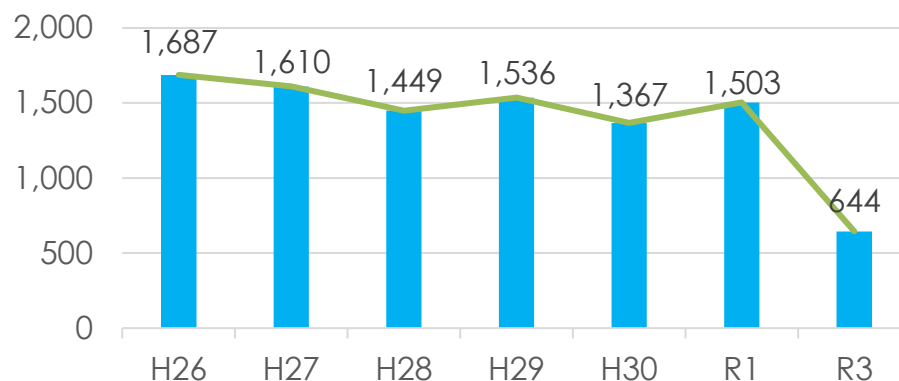
- <課題>**
- 障害者が身近な地域でスポーツを「はじめる」「続ける」ための参加機会、活動拠点、指導者及び情報発信力の不足
 - ・障害のある人とない人が一緒に参加することを想定して開催される地域スポーツイベントが少ない。（参加機会の不足）
 - ・障害者の参加が可能な総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団がほとんどない。（活動拠点の不足）（指導者の不足）
 - ・日本パラスポーツ協会登録の障がい者スポーツ指導員165人のうち、R3に派遣した指導員は17人であり、実人員ベースでの稼働率は10%程にとどまっていることから、指導実績がある指導者の固定化傾向が伺える。（指導者の不足）
 - ・スポーツを実施しない理由のうち「特にない」が最多（39.9%）で、「わからない」（28.3%）の順に高く（※3）、無関心層に対してスポーツへ興味を持たせるための情報が不足している。（情報発信力の不足）

表1.特別支援学校及び特別支援学級在籍者数



出典：令和3年度 山梨の特別支援教育 データ編

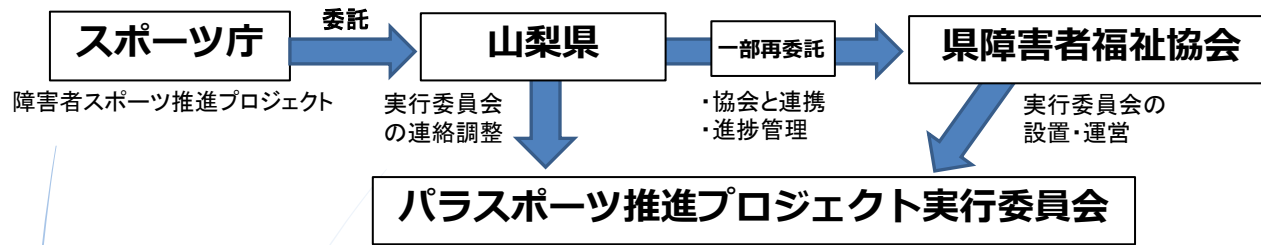
表2.山梨県障害者スポーツ大会参加者数



参加者数...選手及び関係者の合計
 出場対象...13歳以上の障害者手帳取得者
 取得者に準ずる障害がある者

※R2はコロナ拡大により中止

パラスポーツ推進プロジェクトについて(パラスポーツ・コーディネーター配置事業)



- 障害者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を図るため、様々な分野からなる官民学一体の実行委員会を設置
- ・県の障害者スポーツ施策の現状と課題を共有し、障害者スポーツの普及と関係者の連携強化を推進する原動力。
 - ・地域における課題の分析及びその解決に向けた効果的な実践研究の方策を検討。

パラスポーツ推進プロジェクトの内容

目指す姿 (関係づくり)(人づくり)(拠点づくり)により、誰もが身近な場所でスポーツに参加可能な社会
→地域でスポーツに親しめる「機会を創出」するため、「関係づくり」「人づくり」「拠点づくり」によるプロジェクトを推進

関係づくり

- 関係団体との連携を中核的に担うコーディネーターの配置
 - ・県障害者福祉協会へパラスポーツコーディネーター2名を配置
- スポーツ団体、福祉、教育、企業等が行っている障害者スポーツ事業の情報把握、連携体制の構築
 - ・パラスポーツ推進プロジェクト実行委員会の設置・運営
- 各種相談に対応するための窓口設置
 - ・障害者本人や支援者、スポーツ団体等からの相談に対応する窓口を設置し、相談内容に応じてスポーツクラブ、競技団体への受け入れ調整や、初回参加時の同行など、障害者のスポーツ活動が円滑に行われるようコーディネートする。

人づくり

- 障害者スポーツの普及啓発を目的とした研修会及びフェスティバルの開催
 - ・研修会(パラアスリートや学識経験者による講演会等)の企画・運営
 - ・障害の有無に関わらず、誰もが参加できるパラスポーツフェスティバルの開催

拠点づくり

- プロジェクトの実践研究、実施事例(モデル)の収集
 - ・特別支援学校施設を活用したスポーツ交流教室の開催
 - ・4圏域のスポーツクラブ等の関係団体と連携に向けた調整、実践

実行委員会構成団体

【山梨県】

スポーツ振興課
障害福祉課
保健体育課
特別支教育・児童生徒支援課

【福祉】

山梨県障害者福祉協会
山梨県ボランティア・NPOセンター

【障害者スポーツ団体】

山梨県障害者スポーツ協会
山梨県障がい者スポーツ指導員協議会
山梨県ボッチャ協会

【スポーツ団体】

山梨県スポーツ協会
山梨県スポーツ推進委員協議会

【企業】

ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ

【教育】

山梨学院大学
特別支援学校体育連盟

連携し
取り組む

～プロジェクトの例～ 既存事業を活用した関係団体との連携による、課題解消へのアプローチ

【人づくり】

障害者スポーツ指導員派遣

専門的知識を有する指導員を各団体等の要請に基づいて県下各地域へ派遣し、障害者スポーツの普及を図る。

→これまで派遣事例のなかった地域スポーツの場（総合的型地域SC等）へ指導員を派遣し、ノウハウを伝達して体験会の開催に繋げる。

(参加機会の不足解消)

【人づくり】

障がい者スポーツ指導員研修(初級取得)

日本パラスポーツ協会認定「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」を開催し、資格取得を支援する。

→スポーツ推進委員やスポーツクラブの指導者へ受講を広く呼びかけるとともに、個別に訪問して受講者を募り、資格取得者を増やすことで、障害者スポーツを指導可能な指導者の人材を確保する。

(指導者の不足解消)

【拠点づくり】

スポーツ交流教室開催

障害の有無に関わらず誰もが参加可能なスポーツ交流教室を実施し、障害理解の醸成及び社会参加を促進する。

→4圏域毎のモデル校と連携した交流教室を実施する。在校生、障害福祉施設及び地域の企業等へ参加を呼びかけ、地域に開かれたスポーツ拠点としての実用性、ニーズを検証する。

(活動拠点の不足解消) (情報発信力の不足解消)

【拠点づくり】

障害者スポーツ用具貸出・整備

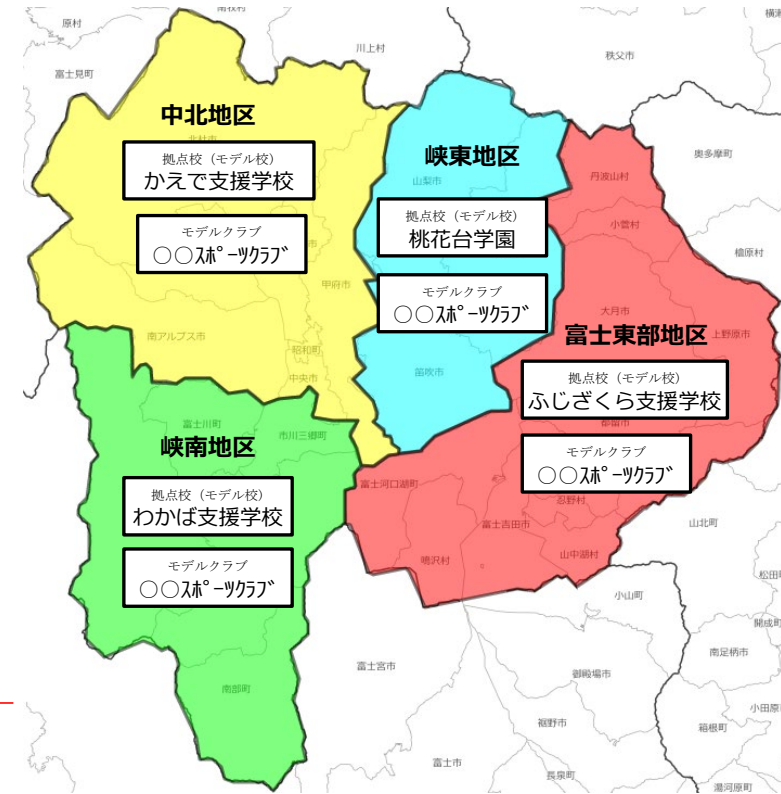
貸出し用の障害者スポーツの用具について、新たにスポーツ車いす等を整備し、障害者スポーツ協会内へ配備する。

→企業や地域の協賛を募り、寄付により新たな用具を整備し、モデル団体へ整備する。

(活動拠点の不足解消)

黒字：これまでの取組

朱字：連携による新たな観点・取組



相談窓口の対応状況

○相談件数 16件
(R4.12月末現在)

相談内容
内訳

- ・体験会、講座等の開催支援及びノウハウの提供... 4件
- ・活動場所等の情報提供及び橋渡し... 8件
- ・指導者の派遣 ... 3件
- ・用具の貸し出し... 1件

体験会、講座等の開催支援及びノウハウの提供

【相談事例】

相談内容：地域の子どもに対し、パラスポーツを通じて障害に対する理解を促したい
相談者：スポーツ少年団指導者



- ・講師依頼
- ・会場確保

- ・山梨県グランドソフトボール部
- ・特別支援学校

グランドソフトボール体験会開催

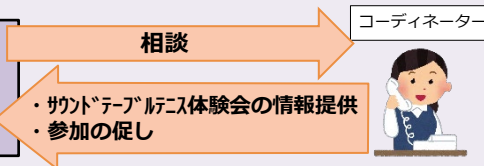


会場：山梨県立盲学校

活動場所等の情報提供及び橋渡し

【相談事例】

相談内容：自分でできるスポーツを体験してみたい
相談者：視覚障害がある方



- ・ソフトテニス体験会の情報提供
- ・参加の促し

相談者が体験会へ参加



指導者の派遣

【相談事例】

相談内容：ボッチャ関東地区予選会で補助員の協力をお願いしたい
相談者：山梨県ボッチャ協会



派遣依頼

- ・県ボッチャの会
- ・県障がい者スポーツ指導員協議会

計6名が補助員として協力



成果及び課題

- ・相談件数はまだ少ないが、周知が進むことで今後、コロナの安定化により問い合わせが多くなる兆しが見えた。
- ・問い合わせについての対応ができた。（障害者スポーツ団体への紹介・用具貸出・交流会の実施）
- ・社協での交流事業について、在住する障害者スポーツ指導員を紹介し、以後のボッチャの指導に対応することができた。
- ・交流会実施によりパラスポーツを体験してもらうことができ、参加者から喜びの声が聞かれた。
（障害のない方には、障害者と一緒に活動することで、障害者への認識の変化を感じてもらえた。）
- ・4圏域の各支援学校からは管理職等の理解・協力が得られ、交流教室を実施する（予定を含む）ことができた。
- ・相談窓口について、より多くの方に知っていただくようにする必要がある。

「パラスポーツやってみるじゃんフェスティバル」の開催

- 日時・場所
- 内 容
- 参加者
- 当日の様子

令和4年11月6日（日）午前9時から正午・山梨県立青少年センター

- ・パラスポーツ体験（ブラインドサッカー、フライングディスク、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボール、車いすスローム、ホッパ、加ーリング）
 - ・障害福祉施設による物品販売・パラスポーツ用具の展示
- 一般参加者・・・167人、運営スタッフ・・・59人



【車いすバスケットボール】



【ブラインドサッカー】



【サウンドテーブルテニス】

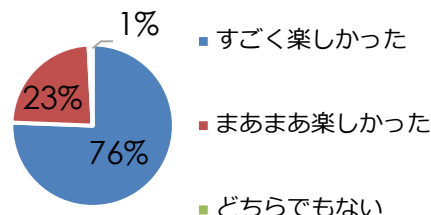
○成果及び課題

- ・障害のある方が参加できるイベントがほとんどなかった本県で、パラスポーツの総合型体験イベント開催は初の試みとなった。
- ・当日の様子は県内ニュースで紹介されたことから、一般県民に対してもパラスポーツへの一定の理解が進んだと思われる。
- ・167人の参加者が共にパラスポーツを体験し、障害の有無に関わらずスポーツを楽しむ姿が見られたことは、誰もが身近な地域でスポーツに参加できる環境づくりに向けた大きな契機となった。
- ・「フェスティバルの満足度」については、回答した参加者の内76%が「すごく楽しかった」と回答しており、「まあまあ楽しかった」と回答した23%と合計すると、99%の参加者がパラスポーツを楽しめたという結果となった。誰でも一緒に楽しむことができるというパラスポーツの魅力が、イベント全体の満足度向上に繋がっていることが考察される。
- ・単発での開催では、一過性の効果に終わってしまうことから、来年度以降の継続を見据えた事業計画が必要である。パラスポーツを通じた障害の理解向上と、共生社会の実現に寄与するフェスティバルへと持続的に発展していくことが期待される。

○参加者アンケート結果（回答数125）

フェスティバルの満足度について

すごく楽しかった：93
まあまあ楽しかった：29
どちらでもない：1
あまり楽しくなかった：0
まったく楽しくなかった：0



【参加者の声】

- ・皆で一緒に楽しめる社会の一步になるきっかけになります。
- ・普段体験しないことを体験できてよかった。
- ・スポーツを通じて障害について知った。
- ・とても良いことです。ダウン症の息子は健常者との交流がうれしかったです。

【運営スタッフの声】

- ・今後も、より多くの指導員の協力により定期的を開催していきたい。

各特別支援学校等におけるスポーツ交流教室実施状況

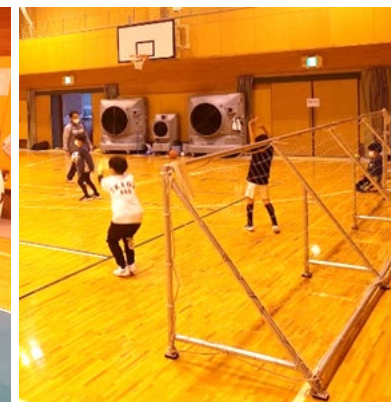
	月日	場所	内容	参加人数
1	7月2日	山梨県立盲学校グラウンド・体育館	ブラインド体験	40
2	7月3日	甲府市里垣小学校体育館	ボッチャ・FD体験	3
3	7月9日	山梨県立わかば支援学校体育館	ボッチャ・FD体験	15
4	9月3日	山梨県立桃花台学園体育館	ボッチャ体験	13
5	9月11日	山梨県立盲学校グラウンド・体育館	グランドソフトボール体験	11
6	9月17日	山梨県立盲学校グラウンド・体育館	ボッチャ・FD体験	30
7	9月23日	山梨県立盲学校体育館	ボッチャ・FD体験	12
8	10月19日	山梨県ボランティア・NPOセンター	サウンドテーブルテニス体験	15
9	11月12日	山梨県立わかば支援学校体育館	ボッチャ・FD体験	12
10	11月22日	南アルプス市甲西健康福祉センター	ボッチャ体験	16
11	11月23日	山梨県立盲学校体育館	ボッチャ・ゴールボール体験	46
12	11月26日	山梨県立桃花台学園体育館	ボッチャ・FD体験	3
13	12月11日	小瀬スポーツ公園ランニングコース	走るの楽しいよ会	14
14	12月11日	青葉インドアテニススクール	車いすテニス体験	9
		8カ所	8種目	計239

○成果及び課題

- ・圏域毎にモデル校を指定し、実施についてご理解をいただいた。
- ・特別支援学校在籍生徒が日常的に利用している地域の施設でも交流会を実施し、パラスポーツの周知ができた。
- ・各学校に協力してもらい家庭にチラシを配布したが、コロナの影響で参加人数が少なかった。
- ・交流会開催予定を新聞のイベント情報などを活用し多くの方に周知すべきだった。
- ・放課後等デイサービスなどの施設にチラシを配布するといった工夫が必要だった。

【スポーツ交流教室 実施例の報告】

テーマ	ボッチャ・ゴールボール体験
実施日時	令和4年11月23日（水）
参加者	甲府市池田地区在住幼児及び児童約46人
会場	山梨県立盲学校体育館
体験の様子	小学生高学年生に事前にボッチャのルールの説明・注意点を確認したうえで競技の運営にあたってもらった。高学年生は幼児にルール教えながら進めてくれた。ゴールボールは、競技に慣れてもらうためにブラインドサッカーボールで練習し、後半は試合形式で体験した。



その他の取組の状況

県ゆかりのパラスポーツによる講演会の開催

- 日 時 令和4年9月29日(木)
- 場 所 小瀬スポーツ公園武道館 会議室
- 講 師 五味 翔太氏(第5回日本IDハーフマラソン選手権 優勝)
小澤 政幸氏(山梨県グランドソフトボール部 主将)

○当日の様子 「出会い」をテーマに、パラスポーツを通じて出会うことができた恩師や仲間の大切さ、これからの目標などについて、障害のある方の視点を交えた講演が行われた。当日の様子は県内ニュースで放送され、一般県民に対してもパラスポーツへの理解が進んだと思われる。

パラアスリート 講演会
 テーマ 『出会い』
 ～ハラスポーツで出会った、大切な人との絆～

五味 翔太 1996年4月21日生 高アルプス市
 2011.12 全国中学校駅伝大会優勝
 2020.01 第5回日本IDハーフマラソン選手権優勝(世界新記録)

小澤 政幸 1999年12月18日生 諏訪市
 山梨県グランドソフトボール部 主将
 全国障害者スポーツ大会陸上競技プロジェクトにおいて7年の連続出場。2005年、2006年、2012年と、3度日本一にチームを導いた。

日時 令和4年9月29日(木) 13:30～15:00 入場無料
 場所 小瀬スポーツ公園武道館 会議室 定員50名(先着順)
 ※当日マスクの着用をお願いします。身体の悪い方の入場はできません。

【主催】山梨県山梨県障害者福祉協会 【後援】山梨日日新聞社・山梨放送(株)・テレビ山梨
 【主幹】山梨県障害者福祉協会 TEL: 055-252-0100
 問合せ・申込み 山梨県障害者福祉協会 TEL: 055-252-0100 FAX: 055-251-3344
 開催日時: 令和4年9月29日(木) 会場: 小瀬スポーツ公園武道館 会議室
 詳細は、協会のホームページをご覧ください http://www.sanshoukyu.net

本講演会は、令和4年度スポーツ振興事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(コーディネーター-総務系)」により実施するものです。

講演会の波及効果

会場で講演を聴いていた県ボランティア協会の関係者から、ボランティア協会主催でパラアスリートの講演会を開催したいとの相談があった。

コーディネーターを通じて2名のパラアスリートを紹介し、11月20日の講演会開催を支援。

講演で五味翔太さんが「陸上教室を開きたい」と語ったところ、障害児の保護者から「ぜひ参加したい」との声が多く届いた。

五味さんから陸上教室の開催についてコーディネーターへ相談

- 紹介したパラアスリート
- ・五味 翔太氏 (9/29講演会講師)
 - ・田中 千晶氏 (県ボッチャ協会副会長)

パラアスリート講演会
 テーマ 『つながり、知る事、見る事、動く事』
 人生まさかの連続！ 困難を乗り越えるモチベーション維持のヒントを見つけて下さい！

講師 五味 翔太 2011 全国中学校駅伝大会優勝
 2020 第5回日本IDハーフマラソン選手権優勝(世界新記録)

講師 田中 千晶 山梨県ボッチャ協会 副会長兼 実業選手
 2021 東京五輪パラボウリング選手権(世界新記録)

ぜひ是非参加してください！

日時 令和4年 11/20 (日) 13:50～16:00 入場無料
 場所 甲府市総合市民会館 芸術ホール (甲府市) 甲府市総合市民会館 TEL: 055-231-3391
 問合せ・申込み 山梨県ボランティア協会 TEL: 055-252-0100 FAX: 055-232-4067 E-Mail: ym@ymn.or.jp

【注】山梨県ボランティア協会 山梨県ボランティアNPOセンター TEL: 055-224-2841 山梨県障害者福祉協会 TEL: 055-252-0100

12月11日に五味さんを講師とした陸上教室を開催することとし、コーディネーターが会場確保とプログラム作成を支援した。陸上教室の様子は山梨日日新聞に掲載された。今後は県内のボランティア団体や社会福祉法人などと連携し、県主催の交流教室として継続的に開催していく予定。

山梨日日新聞 2023年(令和5年)1月15日 日曜日

パラアスリート・五味さんが陸上教室
 「経験生かし恩返し」
 山梨県ボランティア協会が主催する「陸上教室」が12月11日、山梨県総合市民会館芸術ホールで開かれた。講師を務めたパラアスリート・五味翔太さんが、自身の経験を生かして、障害児の子どもたちに陸上競技の楽しさを伝える。五味さんは、2020年東京五輪パラボウリング選手権で世界新記録を樹出した。今回の講演では、自身の経験から、障害のある子どもたちへの接し方や、陸上競技の楽しさを伝える。五味さんは、自身の経験を生かして、障害児の子どもたちに陸上競技の楽しさを伝える。五味さんは、自身の経験を生かして、障害児の子どもたちに陸上競技の楽しさを伝える。

今後の取り組みについて

「関係づくり」「人づくり」「拠点づくり」を更に推進するための取組を実施していく

関係づくり

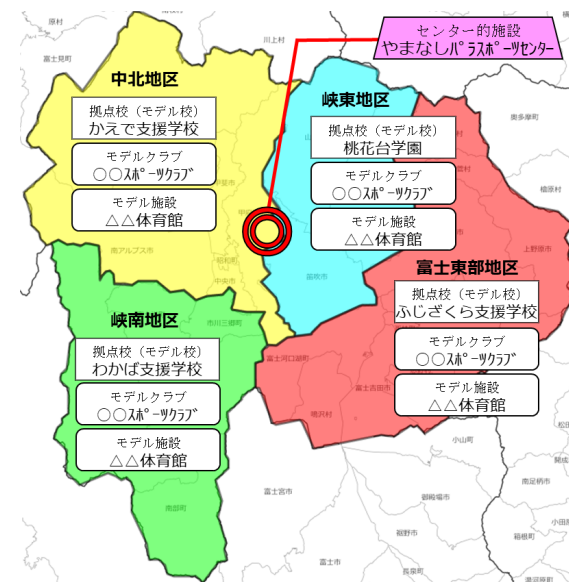
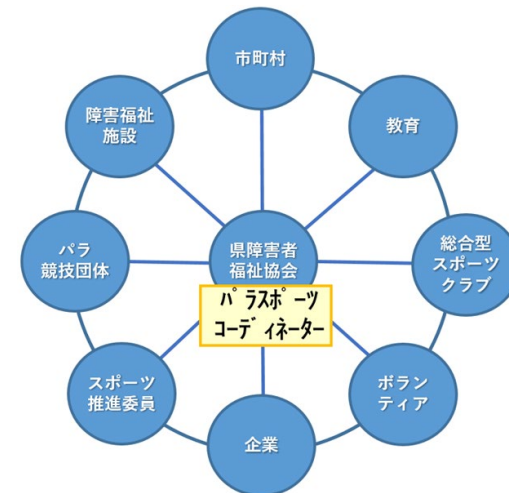
- ・誰もが身近な場所でスポーツに参加できる環境整備に向けて、各分野におけるステークホルダーへプロジェクトへの協力を依頼し、連携・協働を推進する。
- ・パラ競技団体とモデル団体との橋渡しを行い、パラ競技団体へ研修会開催の要請を行って実技研修等を実施し、パラ競技の知識獲得を支援する。
- ・体験会等へのボランティアの募集（ボランティアボード等を活用）及び派遣の調整を行う。

人づくり

講演会やパラスポーツやってみるじゃんフェスティバルを継続して開催し、パラスポーツを通じた障害の理解向上と、共生社会の実現に寄与するイベントへと持続的に発展を図る。

拠点づくり

- ・身近な地域の拠点として指定した4圏域毎のモデル校を中心に、総合型地域スポーツクラブとも連携してスポーツ交流教室等のパラスポーツイベントを実施し、地域の児童生徒、障害福祉施設及び企業等へ呼びかけ、参加者数の向上へつなげる。
- ・センター的機能を有する拠点として「やまなしパラスポーツセンター」を整備し、市町村などに対しても実践事例を共有するとともに、市町村施設のパラスポーツでの活用を働きかける。
- ・今年度クラウドファンディングにより新たに整備したパラスポーツ用具をモデル団体等へ貸し出し、活用する。





【お問い合わせ先】

山梨県スポーツ振興局スポーツ振興課
パラスポーツ担当 主任・望月 幸一

〒400-8501

山梨県甲府市丸の内1丁目6-1

TEL : 055-225-3942

FAX : 055-223-1578